古典の日推進フォーラム2011

日時：2011年11月1日（火）午後1時30分～4時30分

場所：国立京都国際会館メインホール（京都市左京区宝ヶ池）

内容：総合司会　中川緑（女優、元NHK京都放送局アナウンサー）

◆ヴァイオリン演奏

バルトーク　無伴奏ヴァイオリンソナタより第3楽章Melodia

ヴァイオリスト　玉井菜採

バルトークは20世紀を代表するハンガリー出身の作曲家。彼は、第2次世界大戦時、ナチス支配を逃れ、アメリカに亡命しますが、健康を害し、故国の土を踏むことなく亡くなります。二度と祖国に帰れないことを悟った彼自身の魂の歌であるこの曲を玉井さんは未曾有の災害に見舞われた方々に思いを重ね、選曲・演奏してくださいました。

◆あいさつ

古典の日推進委員会会長　　村田純一

◆祝辞　文化庁長官　　近藤誠一

◆「古典の日」会旗披露　古典の日推進委員会正副会長

◆「古典の日」宣言　古典の日推進よびかけ人　芳賀徹（国際日本文化研究センター名誉教授）

古典の日推進よびかけ人　冷泉貴実子（冷泉家当代夫人）

◆講演「鎮魂　あこがれの東北」～方丈記、源氏物語、そして古今和歌集」

小林一彦（京都産業大学教授）

過去に東北で起こった地震や津波が古典文学や和歌に詠まれている例を挙げられ、震災に向き合う人々のありようが今も昔も変わらないことが紹介されました。そして、当時の都人のあこがれの地・東北が一日も早く復興されることを祈ると結ばれました。

◆「源氏物語　千年の謎」（12月10日公開　予告編上映

サプライズゲスト　製作総指揮　角川暦彦　映画監督　鶴橋康夫　主演俳優　生田斗真

◆パネルセッション

「源氏物語」の音世界　～いに　しえから伝わる音に託した想い～

パネリストト　東儀秀樹（雅楽師）

山本淳子（京都学園大学教授）

鶴橋康夫（映画監督）

コーディネーター　福嶋昭治（園田学園女子大学教授）

東儀秀樹さん、山本淳子さん、鶴橋康夫さん、それぞれのご専門の立場、視点から、『源氏物語』のほか、同時代の文学から音の世界を切り取り、新たな物語世界の魅力、古典の持つ力を探っていただきました。進行役の福嶋昭治さんより、「古典は、具体的なものを描きながら普遍を描く、だからこそ永遠の命を持ち得る。それは文学だけではなくて、芸術に共通している。私たちは、古典の日をきっかけに、具体的に描かれた世界をさまざま楽しみながら、そこから永遠の真実のようなものを読みとっていく智恵を思い出し、古典の世界に包まれていたい」と締めくくられました。

◆雅楽演奏　東儀秀樹

雅楽で最も有名な曲をアレンジした「越天楽～越天楽幻想曲（日本古謡）」、歌劇「トゥーランドット」より『誰も寝てはならぬ』のほか、曲の合間のMCでは、古典への思いやご自身の曲に対する思い、作曲の際のエピソードなどを語られました。ラストを飾っていただいた曲は、地球への子守歌としてご自身で作曲された「地球よ、優しくそこに浮かんでいてくれ」。力強くも神聖な響きと独特の世界観に包まれながらエンディングを迎えました。

3月11日の東北地方太平洋沖地震の後、大きな衝撃と喪失感、また自粛ムードの中、一時は開催自体も検討せざるを得ない状況もありました。そのため、このたびのフォーラムは、今一度被災地へ思いを致す機会とするとともに、被災地より避難された方々をご招待いたしました。
近藤文化庁長官の、「人間よ、思い上がってはいけない。しっかりと本来の人間とは何か、人間性とは何か、それをもう一度見つめ直しなさい。そして、その答えは古典にある」、「今後、日本全国民が古典への思いを募らせ、賢い社会を次の時代に残すという方向に向いていくことを願う」との言葉が大変印象的でした。
これからの当委員会の活動が、被災地復興への意義ある活動ともなることを願うと同時に、改めて、犠牲となられました方々のご冥福と一日も早い復興をお祈り申し上げます。